



ともしび

— TO MO SI BI — 第245号

2016(平成28)年9月号

秋 彼 岸

暑さも多少和らぎ、少しずつ秋の気配が漂ってきました。8月はお盆、9月は秋のお彼岸と仏事が続く頃でもあります。夏バテならぬ、お参りバテしないようお寺にも足をお運びください。

秋のお彼岸にお供えするのは「おはぎ」で、春のお彼岸にお供えするのが「ぼたもち」です。これらの違いについて、こしあん・粒あんで分けるのか、それとも米粒の大小で分けるのか？と悩んで調べたことがあります。

「おはぎ」を漢字で書くと「お萩」となり、「ぼたもち」は「牡丹餅」となります。

つまり秋は萩の季節で、あずきの粒を萩に見立てておはぎを作ってお供えし、春は牡丹の季節で、同様にぼたもちを作ってお供えするのだそうです。春は農業の始まる時期、秋は収穫の時期ということで、古来より農作物に対する感謝の気持ちから始まったのでは、と言われています。

さて、食べ物のお話はここまでにしておきまして、お彼岸にお話を戻しましょう。彼岸とは、彼の岸(向こう岸)すなわちお浄土を表しています。そして、此の岸(人間界)から向こう岸へ渡る道、つまり浄土へ生まれていく道を仏さまから教えていただくものです。

本来は、春秋の1週間の中で仏道修行に励む期間としてお彼岸はありました。しかし、親鸞聖人がお示しになられたように、私たちが自分の力で煩惱をなくし、さとりに至ることは到底できないため、阿弥陀さまにこの身をまかせ念仏し、今私たちがすばらしい人生を送る道をこのお彼岸に再確認していただきたいのです。

お彼岸と聞いてイメージするのは、やはりお墓参りであろうと思います。しかし、お彼岸だからお墓参りをしなければならぬということはありません。お墓参りは、心の思い起こした時ならいつでも、亡き人の懐かしい気持ちや、嬉しいこと、悲しいことなどを報告するため、いつでも行くことであると思います。

親鸞聖人は、「歎異抄」のなかで、念仏申さんとおもひたつところのおこるとき、すなはち摂取不捨の利益にあづけしめたまふなり

と、仰せになりました。つまり、私たちが手を合わせ、念仏申す心が起れば念仏申すこと、それはすでに阿弥陀さまのお慈悲の真つ只中にいることを意味します。

私たちの今の人生は、多くの命のつながりの中にあります。先に仏となられた方々が、私たちに勇気づけてくださっていることを改めて感じさせていただくことが大切です。

お彼岸という期間を通じ、先に亡くなられた方々を偲び、私自身の命も老い、病に苦しみ死を迎えていかなければならないことを自覚し、限りある人生のなかで、お浄土へ生まれる道を聞かせていただきながら、先に浄土へ行かれた方々からはたらきに、私心が強さをいただくご縁なのです。



仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 亡くなった人は天国へ？

A. 浄土に生まれる

葬儀を営む目的の一つに「死後の行き先を示す」というのがあります。つまり、亡き人は、ただ消滅し無価値になるのではなく、かたちを超えて普遍的な価値を持つ存在となつて今なお、私たちにかわり続けてくださると見ていくのです。その亡き人の落ち着き場所を示すというのが、葬儀の大切な役割というわけです。

そんな中で、最近では、亡くなった方の行き先を「天国」と表現される方が非常に多くなりました。弔辞などでも「昇天された」とか「天国に召された」と述べられているのを聞くことがあります。この天国という言葉、どうも漠然と使われていて深い意味はないようです。しかし、やはり浄土真宗の葬儀ではふさわしくありません。というより、浄土に生まれることこそが浄土真宗の教えの根幹であり、阿弥陀さ

まがすべての人びとを救いとするために用意してくださった究極の安住場所なのです。亡き人がどこに行かれるか、その行き先をしつかりと見定めていく、そのためにお聴聞していくことが肝要です。天国ではなく、浄土だということ、言葉を、言葉だけでも知って、使っていたいただき

たく思います。

このほか、弔辞

でよく述べられる言葉に「草葉の

陰で安らかにお

休みください」というのがあります。

これも浄土に生まれた亡き人の有りようとかけ離れていて、ふさわしくありません。浄土に生まれると仏さまになつて私たちの元に還つてきてくださいます。遠いところに行かれたのではなく、実はいつでもどこでも、私たちの傍らに来て、励まし支えてくださるのです。それが浄土に生まれるということなのです。

『新・仏事のイロハ』より抜粋



お知らせ

会館ホームページ開設！

この度、新たに会館のホームページを開設いたしました。時代の波に少し乗り遅れた感もありますが、今までより多くの方々に当会館を知っていただくため、開設にいたしました。パソコンを使える方はもちろん、苦手な方も、これを機会に是非ご覧ください。

※アクセス方法

インターネット上で築地本願寺を検索し、「分院」ページから閲覧するか、「東久留米会館」と入力し、検索すると表示されます。



7・8月行事の様子

★キッズサングー泊サマースクール 7月30日(土)～31日(日)

お寺に泊まろう！とご縁のある子どもたちに呼びかけたところ、なんと43名の参加があり、賑やかにお寺で夏休みの楽しい思い出を作ってもらいました。

おつとめ



班活動



花火



2日間とも好天に恵まれ、写真にあるほか、様々な催しを行い、ケガや事故もなく、子どもたちは元気に楽しんでいました。

ラジオ体操



流しそうめん



集合写真



★孟蘭盆会・永代経法要 8月7日(日) 13時00分～17時00分

法要のお勤め、ご講師・白川淳敬師よりご法話をいただき、31名の皆さまにお参りいただきました。その後、納涼懇親会を開催して盛り上がりしました。

法要「仏説阿弥陀経」



8月のお誕生日の皆さま



白川淳敬師



納涼懇親会



お誕生日おめでとうございます。これからも元気にお参りください。我が家の長女も8月で6歳になりました。

夏はやっぱり生ビール！

▶ 9月の行事予定

境内清掃

9月10日(土) 午前9時～

境内の草取りを中心に行います。
皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。
※雨天時は中止となります。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

9月16日(金) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日(日) 午後12時45分～

今年で36回目となる追悼法要です。
戦後70年以上が経過しましたが、
平和への思いを新たにす法要です。

秋季彼岸会

9月22日(木) 午後1時～

ご講師 北村 信也師
(東京都 稱讃寺)
ご参拝の皆さまにはもれなく、
おはぎを差し上げます。



▶ 10月の行事予定

常例法座

10月9日(日) 午後1時～

ご講師 西原 龍哉 師
(千葉県 天真寺)
お気軽にお参りください。



第2回キッズサンガ子ども会

10月15日(土) 午前10時～

ペットボトルを使って工作をします。
初めてのお子さまも大歓迎です。

発行日 2016年9月1日
発行所 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話 042-474-6787

東久留米会館会報 「ともしび」
第245号

編集後記
夏休みを利用して、家族で鎌倉へ行きました。高徳院(鎌倉大仏)にお参りしましたが、とても暑い日だったため、子どもにとつては、終わった後に食べたかき氷の方が印象に残ったようです。(安)

編集後記

伝灯奉告法要参加者大募集
先月もご案内のとおり、10月19～20日に京都本願寺において、伝灯奉告法要が修行されます。締め切りは9月6日です。参加をご希望の方はお早目にお申込みください。

今月のお仏飯米のご進納
森澤 忠和様 岸田 耕造様
ありがとうございます。